同窓会報

第55号
平成22年２月20日

発行所
宮城県伊具高等学校
同窓会
責任者　鈴木英晴

印刷所
佐藤印刷株式会社
伊具郡丸森町大内字石神57

創立九十周年の節目
伊具高呱々の声よりの記録

同窓会会長
佐藤一馬

県立伊具高校の歴史は、人間にたとえれば卒寿の齢にあたり、溜息がもれる程、うらやましい到達点でもあります。人間の歩みというのは中途半端なものでなく、幾多の挫折、病、しがらみ、それらをくぐりぬけてきた尊い命の結晶でもあるのです。

伊具高校とて同じこと、まさに紆余曲折、浮沈起伏に富む波乱の歩みでもありました。あらゆる艱難辛苦をはねて打ち立てた金字塔なのです。世に学校は母なる存在で、文字通り母校と呼ばれる育ての母でもあります。

豊かな流れの阿武隈川のほとり雁歌の里にすばらしい三階建ての学び舎が建っている。校門をくぐり教室に入ると、南側の広場に沿って太い桜並木が見える。夢と希望に満ちた入学生を満開の花が迎えてくれます。そして、先生との出会いと級友の語り合いの中で勉学に励み、クラブ活動で汗を流しながら、先輩後輩の絆を深めて過ごす三年間、そして卒業。その繰り返しと積み重ねたものが現在の姿だと思うのです。そこで立ち止まり振り返り、学校としてたどって来た道筋を少し記してみます。

伊具地方は古くから養蚕業が盛んなため養蚕試験場の設置が地元住民の声として叫ばれていました。しかし、その実現には至らず、別に蚕業学校の設置を望む声が盛り上がり、ついに大正九年一月二十四日、今を去る九十年前に伊具郡会で伊具農蚕学校設置の件が議決され、学校の産声を聞くことになりました。大正十二年四月十七日に乙種実業中等学校として認可され、当時の角田実科女学校（現在の角田市民センター）養蚕室を仮校舎として開校され、農村実業教育がスタートしたのです。当初学校の内容は本科入学資格として、小学校高等科二年終了程度、修業年限二か年、定員八十名、専修科は農閑期のみで五十名でした。大正十二年に郡制が廃止されたことで、角田町ほか九か町村による角南町村学校組合が設立され、同年四月一日に当時全国的に有名であった丸森町の蚕種業家だった旧八雄館（現齋理屋敷の向かい側の駐車場）を仮校舎として、一年間に限り授業が行われました。明治の初めに建てられた古い校舎に（現丸森町保育所）大正十三年四月から移転。そして時は流れて、昭和十二年七月に日支事変、今の中華民国と戦争になり、太平洋戦争へ続いたのです。そんな最中でしたが、昭和十四年四月に県立として認可されました。当時は伊具郡として三町十二か村でした。今は丸森町と角田市となっておりますが、教育の大切さが地域の方達の理解と初代校長本間直人先生の情熱があったから、雁歌の里に移転できたと思うのです。校舎の建築が進められましたが、昭和十六年十二月八日には真珠湾攻撃で世界を相手の戦争に突入し、資材や人手不足の中で一部未完成の校舎でしたが、昭和十七年に待望の新しい学校として、喜びと笑顔で引越しする姿、小学生だった私達もリヤカー、荷車の後押しを手伝ったこともあるのです。

昭和二十年四月に本科二十七回として入学、戦時中の食糧不足や人手不足のため労働奉仕を体験しました。五か月後の八月十五日、敗戦のラジオ放送は不動尊公園近くの開墾地で聞きました。忘れられない強烈な思い出の一つとなりました。二学期になると、教科書は黒い墨塗りの行がところどころにあるもので、一学期のとき教えられたことと今日習うことの違いに、先生方の苦労は勿論、生徒の迷いも彷彿としてくる六十数年前のことでした。

昭和二十二年にアメリカの指導で六三三制の学制改革があり、二十三年度から新しく高等学校が誕生しました。昭和二十三年六月十六日に高松宮様がご視察に来校なされ五葉松の記念植樹、三十センチ程の松をスコップで植えられました。現在校舎玄関の右側に五メートル近い古木となって、鮮やかな緑の葉を繁らせているのです。昭和二十五年には三十周年の祝賀会があり、新しいグランドピアノの伴奏で白鳥省吾作詞、古関裕而作曲の校歌が発表されました。これぞ教育現場、現在としては当たり前のことですが、当時の感激はひとしおのものがありました。その後の行事や総合学科への改変などがありましたが、時代にあった学習の場を援助するためでもありませんが、十年毎の節目として祝賀会を催し、記念誌の発行や同窓会名簿の確認と発行、同窓会館（雁歌会館）の新設などを実行してきました。この度は記念誌と記念植樹を主として、個人情報の問題もあるので名簿の発行は控えることになりました。どうぞご了承くださるようお願いします。

最後になりましたが、本校九十周年の歴史を回顧し、伊具高校を長く愛護育成されました県・町・地域の関係者、又、本校の発展進行のため献身的な努力をされたＰＴＡ・同窓会・旧職員の皆様に深甚なる感謝と敬意を表し、筆を置きます。

高松宮さまお手植え当時と現在の五葉松

あいさつ

学校長　結城　昇

伊具高での生活も早いもので二年を経過しようとしています。同窓生の皆様には、本校の教育に対しまして、日頃より絶大なるご協力とご支援を賜わり、ここに厚く御礼を申し上げます。

今年度も生徒におきましては、学業に部活動にと真摯な取り組みを行い、その結果、数々の業績を上げることができました。まず運動部では、各部とも仙南総体、県総体と日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、伊具高の存在を充分印象づける活躍を示してくれました。その中でも特筆すべきは、二年連続の東北大会出場を成し遂げた弓道部の活躍だと思います。県総体団体五位入賞、そして、三年生の大槻翔太君が個人四位入賞を果たし堂々の東北大会出場を獲得しました。その後、運動部は新人大会におきましても、野球部の二年ぶり県大会出場、女子バドミントン部の仙南地区団体準優勝などの活躍が続いています。

次に、文化部におきましては、書道部で二年生の一條瀬七君が全日本学生書道連盟会長賞に輝いております。書道部はその他の書道展におきましても数々の入選を果たすなどの活躍を示しております。また、写真部や吹奏楽部におきましても種々のコンクールでの活躍を見逃すことはできません。

続きまして総合学科各系列での取り組みですが、農業クラブ主催の家畜審査競技大会乳牛の部で団体最優秀賞、個人で三年天野寛人君が最優秀賞を獲得しました。また、ものづくりコンテストやロボットコンテストでの活躍なども挙げることができます。これらすべてに対して、生徒はもちろんのことながらそれらを熱心に指導していただいた先生方への敬意も忘れることはできません。

さて、昨年十二月丸森町の各種功労者表彰式に参列する機会がありました。表彰を受ける本校同窓生の多さに、改めて地域の人材としての同窓生の活躍に胸を熱くする思いがしました。ところで先日、校長室の机のファイルを整理していたところ、平成二十年に本校で講師をしていた田沼先生から渡された、埼玉新聞の切り抜きを見つけました。それは、昭和三十年本校を卒業した大槻忠雄さん七十二歳の記事でした。現在、さいたま市岩槻で材木商を営み、自宅敷地内に木の博物館「木力館（きりょくかん）」を建て、そこの館長をしています。大槻さんの言葉に、「家を建てる木材はその土地のものを使うのがいい。輸入木材は湿気の多い日本には向いていない。切られても生きているからです。生まれ育った環境で使うのが一番」とありました。国産の材木、特に埼玉県産の木材の需要増進を訴えているものでしたが、その中には、故郷丸森を遠く離れ、埼玉の地で独力で現在の材木商を築き上げ、半世紀以上の年月を当地で過ごした労苦と気概を偲ばせるものがありました。本校の同窓生は全国各地で活躍していますが、まさに、その一人として是非紹介したい思いに駆られた次第であります。

また、昨年になりますが昭和二十六年度卒業生の同級会「協友会」の方々十七名が、五十八年ぶりに母校訪問ということで来校しました。喜寿の祝いを兼ねて同級会をあぶくま荘にて催し、併せて母校訪問を計画したそうです。皆さん肌つやも良く、すこぶるお元気でありました。校内の施設を案内し、その後、雁歌会館にて本校の現状についてお話させていただきました。その折り、今年の本校の創立九十周年記念事業のためにと、多大なる協賛金をいただき大変恐縮する次第でありました。十一年後の米寿の折りに、皆さんお元気で再び母校訪問なされることを心よりお祈り申しあげます。

ところで、昨年三月告示された新高等学校学習指導要領によれば、基本方針として前回の学習指導要領と同様「生きる力」を育むことが謳われています。生徒自身が自ら学び、自ら考え、他者や社会と協調して、目標に向かって努力する「生きる力」を育てることを目指しています。「生きる力」を育むとき最も大切なことは、生命を尊重する心、他人への思い遣りの心をいかに醸成していくかだと思います。学校教育法によれば、高等学校教育の目的は、豊かな人間性や創造性、健やかな心身を養うとともに、社会において果たさなければならない使命の自覚に基づいて、個性に応じて将来の進路を決定させ、社会の発展に寄与できる資質を養うこと、とあります。これからの教育は、これまで以上に、自己をじっくり見つめさせ、人間としての在り方や生き方のより一層の指導が必要となってくると思います。

そして最後になりますが、本校の使命の一つ、地域への人材輩出のためにも、生徒自信が将来誇りを持って社会の使命に応えられるよう、その自覚の芽生えを少しでも植え付けられるよう、先生方と共に本校の教育に励んでいきたいと思います。

平成二十一年度総会報告

八月九日（日）午後二時
（評議員会午後一時）

◎協議事項

一　平成二十年度事業・報告並びに承認

二　平成二十一年度事業計画・予算案審議

三　役員改選について

二十二年度に九十周年を控え、役員の方々がその役職に就いていますので留任に決定しました。

四　九十周年記念事業について

●事業内容について

①式典（期日二十二年十一月十一日）

②記念誌

同窓会割当分三百冊について協議の結果、事務局で各支部の割当を提示し、各支部長さんに販売していただくことに決まりましたのでお願い致します。

③記念植樹（式典当日）

④記念講演（式典当日）

⑤祝賀会（式典当日）

●同窓会員名簿について

八十周年発刊の名簿について、住所等の再調査を実施することになりました。各クラス代表者の方を選出させて頂き、お願いしていますのでご了承のうえ、ご協力をお願い致します。

九十周年記念事業に向けて

総務部長　阿部茂夫

本校の創立は大正九年四月十七日（現開校記念日）に宮城県伊具農蚕高校としてスタートしました。学制改革により昭和二十三年に伊具農蚕高等学校と改名し、時代の流れと共に昭和三十八年、現在の伊具高等学校に校名を変更しました。

昭和三十八年時代は農業科・商業科・生活科の学科でしたが、平成十一年度より第三の学科と言われる総合学科を導入しました。

学習形態は、系列を導入した六系列（教養・電気・機械・福祉・情報・農学）でスタートしました。しかし管内中学生の減少に伴い百六十名定員から百二十名定員になり、当然系列も再編し直さなければならなくなりました。

平成二十一年度より四系列（機械・福祉・情報・農学）になりました。しかし学校の事情が変わっても本質は変わっていません。

本校の総合学科の特長は

一、幅広い選択科目
二、自分だけの時間割
三、きめ細かな学習指導
四、進路保証100％
五、目指すは二十一世紀市民
六、技能審査成果による単位認定

です。

進路指導を中心に行い、その結果として進路決定率が高い学校と評価されています。その中で来年度の卒業生で十年目を迎えます。

十年目を迎える来年度は総合学科としていろいろ評価される年でもあり、何かと注目される年になりそうです。

これまでの伊具高校、八十九年と言う時代を紐解いてみると、それぞれの節目節目に記念式典を行っています。

昭和26年：30周年記念式典
昭和35年：40周年記念式典
昭和44年：50周年記念式典
　写真集作成
昭和55年：60周年・柔剣道場落成記念式典
平成２年：70周年・雁歌会館落成記念式典・記念誌発行
平成12年：80周年・クラブハウス建設記念式典

そして平成二十二年十一月十一日（木）に創立九十周年記念事業を行います。

今回予定している記念事業は百周年を見据えたものではありますが、五つの記念事業を行います。記念植樹・記念式典・記念講演・祝賀会・記念誌発行です。それぞれに専門部を置き同窓会・ＰＴＡ・学校と協力しながら進めています。

記念植樹は、校門横に「縦の木」を植樹します。この「縦の木」は同窓会長の佐藤一馬様より寄贈されます。

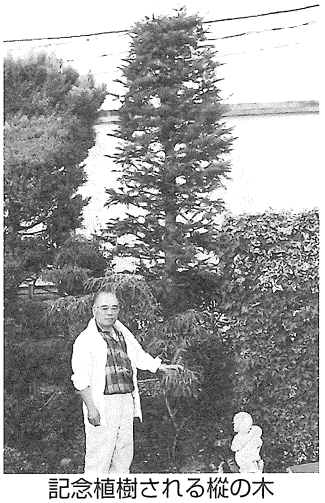
記念式典、並びに記念講演は、本校体育館で行われます。式典・講演に関しては現在調整中です。

祝賀会は丸森町にある国民宿舎「あぶくま荘」で行われます。

記念誌は七十周年記念事業で発行されているので、そこから二十年分の内容を盛り込み、百ページ程度で百周年につながる内容で制作される予定です。

九十周年記念事業を行うために、平成十八年の設立準備委員会から現在まで常任委員会・専門部委員会がそれぞれ開催されています。いろいろな意見が出され、又修正案等もあり十一月十一日（木）に向けて進行中です。

九十年目を迎えるにあたり、再度歴史の重みを感じています。


記念植樹される縦の木

故須藤絹子さんがOB会を通して野球部へ寄付

本校野球部OB会の池田幹夫さん（農業19回卒）と小形弘さん（商業３回卒）が、当時顧問だった小野正彦先生（普通５回卒）と共に11月13日に本校を訪れ、後輩の野球部のために使って欲しいと寄付を申し出られました。

当時マネージャーとして活躍された須藤絹子さん（生活19回卒）が昨年７月に逝去され、遺族の方が遺品の整理を行ったところ、OB会への寄付金が見つかりました。これを受け取ったOB会は検討し、お世話になった野球部に恩返ししたいという須藤さんの遺志を受け継ぎ、母校野球部への寄付ということでまとまり、学校長が10万円を受け取りました。

野球部OB会は昭和43･44･45年の卒業生で組織される会です。現在も途切れることなく、年一回欠かさず集まり親睦を深めてきたそうです。そこで交流を続けてこられた須藤さんは、母校では初の女性マネージャーとして活躍されました。当時、女性マネージャーは県内でも珍しい存在で、ラジオの取材を受けることもあったそうです。しかし、はじめは女子だということでベンチに入ることも許されなかったといいます。合宿ともなると須藤さんの家族も協力して食事作りを行ったりと、献身的に活動されました。須藤さんはその後、都内の病院に勤務され、夜学に通いながら看護師の資格を取られました。また、看護師養成所等でも講師をなさったほか、一昨年からは東北福祉大学において看護学の講師をされていました。卒業後も人一倍努力家だった須藤さんのお姿が忍ばれます。

生徒達もこうした須藤さんをはじめ先輩方の気持ちを受け継いで、更に活躍してくれることを願ってやみません。

（事務局　鈴木英晴）

※　このことは11月19日の河北新報でも紹介されました。また、４ページに野球部OB会についてのご寄稿があります。

◎懇親会

当日大変忙しい中総会に参集有難うございました。

また、十六時より町内白木屋で行われました懇親会に多数参加していただき、懐かしい思い出話や実習の苦労話等で盛会のうちに終わりました。

（事務局　齋藤慶昭）

平成21年　伊具高校同窓会総会　H21.8.9

会員の声

野球部ＯＢ会

池田幹夫（農業19回・丸森支部）

私は昭和四十三年三月、農業科卒の野球部ＯＢです。在学当時は現校舎の南側がグラウンドで、狭いうえ陸上部と共用で、今思うとよくケガをしなかったものだと思います。

三年間で一番思い出深い試合は一年夏の県予選三回戦です。東北高校の小松島グラウンドで仙台一高と対戦、この試合に勝てば次は育英戦だったのですが、私のエラーが絡んで三対二で逆転負けを喫してしまいました。

三年間、監督としてご指導いただいたのが小野正彦先生です。先生は私達が卒業後も母校に勤務され、定年退職されました。私達は小野先生にご指導いただいた卒業生のうち、丸森・角田に在住している仲間で、毎年二月に「小野先生を囲む会」を開き、親交を深めております。小野先生からは母校や野球部の後輩たちの活躍ぶりをお聞きして、在学中を懐かしく思い出しております。

昨年十二月、河北新報で紹介されましたが、在学中マネージャーをしてくれた同級生の須藤絹子さんが逝去され、ご家族からＯＢ会の活動にと二十万円の寄付をいただきましたが、みんなで相談した結果、半額を後輩の野球部員のために使っていただくことに致しました。また、平成十年、母校の実習棟が火災に遭い、野球部の用具が燃えてしまったことを小野先生からお聞きして、ＯＢ会から十万円を寄付させていただきました。

今年の「小野先生」を囲む会は私が幹事で、二月六日に松川浦の栄荘で開かれる予定です。今年は現監督の原田先生にも参加いただけることになっています。

私達は今後もこの会を継続し、仲間の絆を深めていきたいと思います。

伊具高生諸君ガンバレ

横山博昭（農業21回・小斎支部）

還暦の同級会も近いある日、同じ部落の齋藤慶昭先生が原稿依頼に来られた。これも何かの縁と引き受けましたが、さて困った。そこで「百年に一度の大不況等と報道されているこんな時代に、今春巣立つ我が母校の後輩諸君に少しは役に立てばと恥をしのんでペンを執りました。」

私が学んだ当時の母校は、校門が現在のプール北側で県道から右折して、入って行くとすぐに講堂（剣道・柔道の部活に使用）があり、奥には陸上部が練習していたロータリー、野球部が練習していたグランドと校庭が広がっていた。正面玄関のある南校舎と北校舎の木造平屋の学び舎、そして、我が農業科は更に西側（カマボコ屋体の南）に位置して職員室から遠く、いくら騒がしくしても先生が注意しに来なかったような校舎だった。

又入学すると直ぐ昼休みは応援団長に呼び出され、土手に座らされ、桜の木の下で応援練習と称して「母校精神」をたたき込まれた。しかし、我がクラスは結構元気がよかったので「でっかい声」を出して楽しく頑張った記憶が蘇る。

川向の農場では鍬（くわ）を使って畑掘り（川で魚捕り）、根っこ入り農場では豚の飼育（子豚が檻から逃げて大騒ぎ）、ニワトリのたまご獲り（生玉子呑み）など実に「オオラカ」に学校生活を送った思い出は今も忘れない。

秋には全校男子学年別対抗マラソン大会（正式名称は思い出せない）、学校～金山～小斎～枝野～角田～舘矢間～大耕分校折り返し～丸森橋～校庭（確か十区間）があり、私は一番難所（自己申告）の杉の入から大耕分校まで（約八キロ？）の走者伴走（自転車に乗り、竹を持って激励係）、お陰で二度区間賞、走者の松野君は大変迷惑だったと思うが、今でも一番の切っても切れない友達である。

我々の卒業するころは、高度経済成長の始まりでケーヒンさん、アルプスさん、ホーチキさん等が土地を探しに、又労働力を求めて進出してきた時で、集団就職で関東方面に行くか、地元で工場勤めをしながら農業も（兼業農家）やれる時代で恵まれていた。しかし私は工場で毎日同じことをやるのが嫌い（後で間違いに気づく、大変申し訳ない）で現在の職業に就き、四十年間同じ企業で過ごしている。その間お蔭様で良き先輩、良き仕事仲間、良きお客様、そして良き友達・女房・両親に恵まれた。「謝、謝」いままで出会ったすべての人々に感謝する毎日であります。申し訳ありませんが我が社（窪田電気工事株式会社）のＰＲをさせていただきます。社員として伊具高卒業生は五十七歳～二十歳まで私を含め十人在職しています（全社員二十六名）。

さて大変僭越ですが、職場で働くときの基本（意外と出来ない）を伝授します。君たちは今社会に巣立つ準備中ですが、頭だけで考えず、素直に直接ぶつかることです。体で体験することです。朝、みんなに「おはよう」と声をかけてみてください。又声をかけられたら直ぐ「おはよう」「はい」と応えてください。「ありがとう」と「笑顔で」お礼を言ってみてください。笑顔のあなたにみんなの笑顔が返ってきます。「道徳」「常識」「躾」などいろんな基礎がありますが、素直に「笑顔」で接すれば解決します。

職場の第一歩は「あいさつ」です。そんな貴方に、仲間、先輩、友達から笑顔の返事がかえってきます。気分が良くなって、貴方は元気に行動します。笑顔は元気の源です。怒られても、それは貴方のために叱ってくれているのです。「プラス」に考えましょう。今日は叱られて、素直に覚えた儲かった、貴方はどんどん成長するでしょう。

自分から思い切って挑戦してください。勇気を出して「伊具高生諸君ガンバレ」

「人は鏡、万象是我師」

人は我が鏡自分の心を映す鏡である真面目に師事して尋ねる人には正しく答えてくれる

思い

清野美由紀（農業31回・大内支部）

同窓生の皆様におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと存じます。早いもので、卒業して何十年が過ぎました。

昨年は同窓会事務局の方から依頼があり、クラスの女子名簿の再確認を担当することになりました。その担当のせいか、何十年ぶりに話すチャンスを与えていただき、懐かしい会話に盛り上がりました。

卒業アルバムを一枚ずつめくると、高校時代の色々な思い出が頭の中に蘇ってきます。

当時の農業科三Ｂは、女子十一名、男子二十四名のクラスでした。

農業の実習では、家畜の世話や稲作やら、様々な体験を通して色々な知識を学ぶことができました。収穫した物を近所の皆さんに販売して歩き、人との温

かいふれあいもありました。
何十年過ぎた今でも、高校時代の想い出は私の心の中にたくさん残っています。
高校時代に戻りたいと思うのは、私だけでしょうか。
卒業当時の文集の中に、三A担任の先生が「社会生活で大切なこと」というテーマで書いていたのを覚えています。
一、挨拶・礼の大切さ
二、人の話に耳を貸す
三、人の良いところを自分のものとせよ
四、わからないところは、知っている人間に聞く態度が必要
五、広い知識を持った人間
六、健康管理に注意する
これらの言葉を一生忘れる事なく、自分の子供達にも伝えていきたいと思っています。

薬莱の春に思う

佐藤彰子（総合3回）

薬莱の麓にも雪解けの調べが響き始め、鳴瀬の流れに雁歌の春を思う。学生として母校を巣立ち、今年で六年になりました。昨年教員として初めて母校に勤め、公務等については右も左もわからなかった私に、本当に温かいご指導を頂いた先生方のことを思い出すと、今、改めてその有り難さが身に染みます。
現在、加美農業高等学校に勤務して居りますが、伊具高等学校で過ごした学生生活と、常勤講師として勤めた1年間がとても大きなものであったと強く感じております。自分勝手に思い描いていた理想の教師像と現実の差は大きく、このままでは生徒に申し訳が立たないと焦燥に駆られたこともありました。然し乍ら、教師としての重責を寧ろ誇りとすることができるようになったのは、あの一年あればこそと思って居ります。昨年三月の末、教員採用試験に合格し、加美農業高等学校での勤務が決まり、農場の先生方から万歳三唱で送り出していただいた日のことは、今も鮮やかに思い出す事ができます。自分の不甲斐なさに心折れそうな時、自己の信念が揺らぎそうな時、その光景に幾度となく励まされ、救われてきたことでしょうか。今は一日も早く一人前の教師となることが唯一つの恩返しと考え、邁進したいと思って居ります。
末筆乍ら、学生の時分よりご指導頂いて居ります佐々木修規先生、田所純一先生、学生時代のみならず、講師としての一年間をご指導下さった結城昇先生、三浦浩先生はじめ、温かく見守ってくださいました沢山の先生方、本当にありがとうございました。

支部だより

支部総会で校歌をうたう

角田支部　伊藤収（普通6回・角田支部）

角田支部の活動は、支部役員会と毎年二月に開催する支部総会、総会に続けて行う懇親会が主なものです。
従って今回も役員会と総会を中心に報告を致します。
まず支部役員会は、平成二十一年一月三十一日に市内「かんの」において開催し、総会とその議題等について協議しました。この役員会には支部長以下役員十二名と事務局の木村先生にもご出席を頂きました。
支部総会は、平成二十一年二月二十一日に昨年と同じJAふれあいセンターで開催し、会員十九名と大変お忙しいところ校長先生他三名の先生方にもご出席を頂きました。
総会は、八島先生の指導で、伊具高校歌「阿武隈川は洋々と・・・」を全員で斉唱し始めました。校歌は、昭和二十五年の制定と聞いておりますが、会員の中にはそれ以前に卒業された方もおられます。昨年の総会で母校の校歌をうたってみたいという要望があり、今回先生方にお願いし実現したものです。
次に支部長挨拶として、母校の九十周年事業の概要とそれへの協力のお願いがありました。又、校歌をうたうことについては、母校のなつかしさと昔に戻りたいという意識があるのだと思います。続けたらどうかというお話がありました。
次に結城校長先生から三十五年前の教員生活のスタートが伊具高校であったこと、又、その当時の思い出、そして現在の教育内容等についてお話がありました。
続いて議事に入り、はじめに平成二十年度の活動経過と会計報告、そして次年度の活動計画が提案されましたが、これも承認され議事が終了です。次は記念写真を撮影し、楽しみな懇親会のひとときです。大いに盛り上がり、時間をオーバーし解散しました。

仙台支部だより

谷津邦郎（農蚕10回・仙台支部）

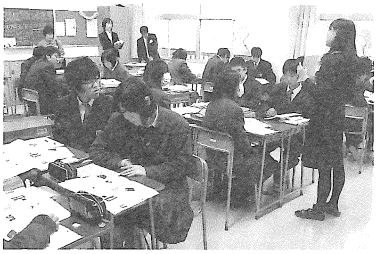
穏やかな寅年新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
新カゼなど召さぬ様・・・パンデミックのないような年でありたいものです。
さて、去る二十年九月二十日（日）、支部役員会、懇親会を開催しました。参加者は十人足らずでしたが、母校本部からは、佐藤会長・鈴木先生（事務局）には公私ともご多忙のところ来仙出席いただき、花を添えていただいたことに感謝いたしております。
会長からご祝辞をいただきました。（要旨）「仙台支部から初めてお招きがあり嬉しく参加させていただいた。同窓会の運営には皆様のご協力に感謝している。先日の総会の役員改選では、又会長を引き受けることになった。よろしくお願い致します。
創立九十周年記念事業については種々検討中でありますが、式典は平成二十二年十一月十一日と決定したので、多くの会員の参加の下、盛会に終わりたいと望んでいる。仙台支部の発展を祈念する。」
谷津支部長の挨拶の後、議事に入り、二十一年度総会報告と九十周年事業のあらましの報告を受けました。
さらに仙台支部活動のあり方などが検討され、母校本部との連携を密にし、支部役員の意思の疎通を図りつつ事に当たることとされました。どんな会合でも参加については個人の価値観に左右されるところが大きく、世話人の呼び掛け、口コミなどが大きい効果を生むのではないと思います。
懇親会ではいろんな昔話も出ましたが、九十周年記念事業を成功させ、百周年を迎えたい等々・・・。和気藹々の中お開きとなりました。
こんな心配りで進めて参りたいと思います。皆様のご理解お力添えをお願いいたします。

母校だより

「分かる授業」研究発表について

教務部長　佐藤英之

今年度、本校は宮城県が実施している「個性かがやく高校づくり推進事業」の研究指定校となりました。これを受けて、本校では各教科・系列で「分かる授業」の研究に取り組みました。これは、苦手な教科を持つ生徒に対して、どのように指導して理解させることができるか、また、高校の高度な学習内容をいかに分かりやすく授業をして、生徒の学力を向上させるのかという研究です。各教科での授業の工夫には次のようなものがあります。「①アンケートや実態調査テストなどを行い生徒の現在の基礎学力を把握する。②習熟度別指導やチーム・テーチングなどを取り入れたきめ細かい指導をする。③生徒の身近な題材を用いて興味・関心を喚起する。④実習やレポート提出・小テストやノート提出などをさせ学習事項の定着を図る。⑤視聴覚教材を有効に活用する。」など



です。十一月十一日(水)の研究発表会では、すべての教科で公開授業をし、十二名の先生が研究授業を公開しました。多数の参観者から貴重な意見・感想が寄せられ、さらに分科会で研究・協議が行われ、今後の授業の参考にすることができました。また、午後の全体講演会では東北学院大学准教授の吉村功太郎先生に『よい授業とはどのようなものか―「わかる」と「できる」を通じて』と題して講演をいただきました。人間の記憶と理解の認知科学を基にした授業のあり方をお話しいただき、有意義な研修となりました。本校では、この研究を基に、今後もさらに「分かる授業」の実践に努めて行きたいと考えています。

機械系列の研修

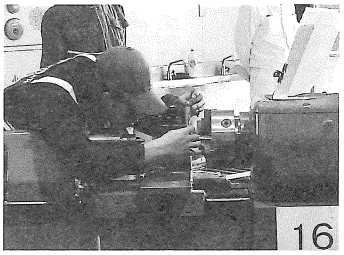
3年　前川隆之

私は機械系列で六つの資格を取得してきました。

一番最初に取った資格はアーク溶接でした。アーク溶接は一年生の夏休み中に講師の方に来ていただき、一日目はアーク溶接の原理などの勉強、二日目は実習を行いました。原理は難しかったのですが、丁寧に教えていただくことができ、覚えることができたのでとても有意義でした。

二つ目はトレース検定です。トレースとは図面を早く綺麗に書き写すことです。トレースは書き写すだけなので簡単だと思っていました。しかし、実際にやってみるととても難しかったのですが、授業で先生に教えていただいたり、何回も練習するうちに、トレースで使用する道具などにも慣れ、三級を取得することができました。

三つ目は計算技術検定です。これは特殊な電卓を使い早く問題を解いていくというものですが、問題を解く際には電卓の設定などが必要で、ただ数字を打つだけでなく覚えることもたくさんあるので苦労しました。しかし、先生に早く解答するためのコツを教えていただき、これも三級を取得することができました。



四つ目はガス溶接です。これはアークの時と同じように講師の先生に来ていただいて講習を受けました。ガス溶接はアーク溶接よりも実習がとても難しかったです。

五つ目は初級CAD検定です。これはパソコンで作図することで、筆記が難しく、過去問題を何度も解き、分からないところは先生に質問して無事取得することができました。

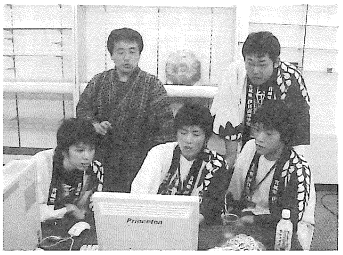
最後に取得したのがフォークリフトです。運転は怖いところもありましたが、資格を取得できてよかったです。

これらの研修で学んだことを、これからの職業生活で生かして頑張りたいと思います。

齋理幻夜に参加して

3年　近野かがり

毎年情報系列では、八月に齋理屋敷で開催される齋理幻夜のポスターの作成を授業で行っています。これまで自分たちが学んできたコンピュータの知識を使って行います。一人一人が齋理幻夜をイメージしたポスターを作成します。今年のテーマは「結～人を結び、昔と今と未来を繋ぐ～」でした。このテーマにそって、色とりどりのさまざまなポスターが完成しました。このポスターは丸森駅や町役場、あぶくま荘などに飾られます。幻夜当日には齋理屋敷の隣の空き店舗にも飾られます。ここは当日幻夜新聞の発行編集室となります。幻夜新聞とは齋理幻夜の様子をリアルタイムで紹介するもので、毎年伊具高校情報系列の生徒が担当しています。新聞に使われる写真の撮影や取材・デザイン・配布まで、すべて情報系列の生徒が行っています。当日は開催時刻よりずっと早く集合し、会場設営やパソコンの搬入を行います。そして取材・新聞作成・配布のそれぞれの班に分かれて活動します。この新聞は開幕準備号・第壱版・第弐版の全三種類発行されます。どの新聞でも写真が多く使われていて、デザインもそれぞれ違っているので、誰でも楽しんで読むことができると好評です。他にも情報系列では、齋理幻夜の総合アナウンスも担当しています。事前に発表原稿が手渡され、夏休み中に何度も先生と練習を行い、幻夜スタッフの方との読み合わせも行いました。そうしたアドバイスをしっかりメモし、自分でも読み間違えたりしないよう注意しました。当日は多くのお客様から喜んでいただけて、高校時代のかけがえのない思い出となりました。



これからもこうした地域に貢献できる行事を大切にし、地域にとってなくてはならない情報系列に、学校にしていきたいと考えています。

ホームヘルパー養成研修

3年　吉野由紀枝

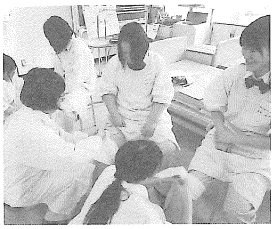
私は平成二十一年十二月十日に無事訪問介護員二級の資格を取得することができました。資格といっても試験を受けて取得したわけではありません。決められた課題や実習を行い取得することができました。

まずは授業を休まないということが要求されました。休んだ分は補講を受けるということでしたが、私は休まずに授業を受けることができました。また、授業にも集中し基礎を身につけることもできたと思います。

また、二年生の冬には日本赤

十字社から講師の先生に来ていただき、救急法をしっかり指導していただきました。AEDの使い方や心臓マッサージ、人工呼吸などの正しい方法を学ぶことができ、とてもよい勉強になりました。

そして、ホームヘルパー養成研修の中でメインといえる施設実習が三年生の夏休み中に実施されました。この実習では特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・訪問介護という、三つのタイプの介護を経験しました。学校での実習とは違い、今まで学んできたことを実践する相手は実際の利用者さんたちです。また、周りに先輩の職員さんがいたこともあり、迷惑は掛けられないと思い、とても緊張しました。やはり、実際に介護をするということはとても大切なことだと実感させられました。特に、拘縮した方への介助が大変でした。でも、どの施設でも私が感じたのは、利用者の方にお礼を言っていただいたときのやりがいが大きいということです。



私は今年の四月から介護士として新しいスタートを切りますが、高校で学んだことや養成研修で学んだことを胸に、より良い介護に努めていきたいと思います。そして、たくさんの利用者さんの笑顔のために、いっぱい苦労を重ねていきたいと思います。

女子柔道新人県第三位

2年　小山由姫

新人戦当日、私は今まで感じたことのない緊張感に襲われていました。

私はもともとバスケットボールをしており、柔道の経験がありませんでした。そんな私に柔道を教えてくださったのは、他でもない柔道部顧問津田先生でした。

私は一年生の時にバスケットボール部に所属していたため、柔道を始めたのは二年生の春からでした。

初めての柔道の練習は、楽しくも辛い日々でした。何と言っても一番辛かったのは、柔道部に女子部員がいなかったため、毎日の練習相手が体格の違う男子部員だったことです。今思うと、男子部員との練習が自分のためになりました。

私にとって新人戦の道のりは遠くも短くも感じました。新人戦までには、仙南練習会・他校との練習試合など多くのことがありました。いろいろな経験を短期間で私は体験したのです。

そして待ちに待った新人戦。私の相手は強豪の小牛田農林高校の団体戦で主将を務める選手でした。相手の子は私より体格が大きく、迫力がありました。審判が『始め』の合図をした瞬間から、私は頭が真っ白になりました。正直なところ、試合中の記憶はありません。試合中に言われていたはずの先生の言葉も、部員の声援もです。気づいたら負けていました。

今思うと、まだ自分に自信がなく、気持ちの面でも負けていたのだと思います。

結果的に入賞した三位の成績ですが、私はこの成績を期に、自分の力で入賞していきたいと決意しました。私にとって新人戦は、柔道に本気になれた、向き合えた日でした。

残り少ない部活動の期間を十分に生かして柔道に励んでいきたいと思います。

生徒の活躍

■仙南総合体育大会

【柔道男子】
団体　第3位
-100kg級　第3位　菊池　雄大
+100kg級　第2位　大久保圭涼
第3位　今野　悟

【弓道男子】
団体　第3位　Aチーム
個人　第3位　大槻　翔太
第4位　佐々木　健

【卓球男子】
団体　第3位
シングルス　第3位　齋藤　恒平
ダブルス　第3位　寺島　孝行
齋藤　恒平

■県総合体育大会

【弓道男子】
団体　第5位
個人　第4位　大槻　翔太

東北選手権出場
個人射道　第2位　大槻　翔太

■岩沼市武道大会（弓道）
団体　高校男子の部　優勝
射道優秀　大槻　翔太

■宮城県管打楽器ソロコンテスト
予選　高校生の部
優秀賞　齋藤　美花

■夏季写真コンテスト
優良賞　佐藤　惟

■全日本吹奏楽コンクール宮城県大会予選
銀賞

■全国学生書道展
全国表彰校
会長賞　一條　瀬七
副会長賞　高橋　里帆

■仙南美術展
奨励賞　土生麻衣子
奨励賞　大槻亜矢子
奨励賞　酒井　麻喜

■家畜審査競技会
肉用牛の部
団体　優秀賞
個人　奨励賞　草間　翔
乳用牛の部
団体　奨励賞

■仙南新人大会

【バドミントン女子】
第2位

【柔道男子】
100kg級　第3位　菊地　雄大

【柔道女子】
団体　第2位
個人　第1位　小山　由姫
第3位　菊地　里佳

【卓球男子】
団体　第3位

【弓道男子】
個人　第6位　小形　和史

【バレーボール女子】
第4位

【陸上競技女子】
円盤投げ　第1位　船山美麗菜

【陸上競技男子】
フィールド　第2位
円盤投げ　第1位　引地　弘星
走り幅跳び　第1位　大橋　正広
槍投げ　第2位　石井　達也

■秋季高校野球南部地区大会
第3位

■県高校生選抜書展
特選賞　一條　瀬七
銀賞　佐藤　千明

■県新人大会

【柔道女子】
団体　第3位
個人　第3位　小山　由姫

■仙南ジュニア陸上競技選手権大会
高校男子
砲丸投げ　第2位　引地　弘星
走り幅跳び　第1位　大橋　正広

■仙南地区納射会
1年男子の部　第3位　小形　和史
第4位　八島　伸広

■名取市民総合スポーツ祭（柔道）
高校・一般男子
第3位　今野　悟

■高校生ものづくりコンテスト
旋盤作業部門　優良賞　笠間　大輝

■宮城県アンサンブル
コンテスト仙南地区大会
管打楽器八重奏　銀賞

■まるもり「いいもの探し作文」
一般の部　特別賞　伊藤　史華

■県南支部中学生・高校生
バドミントン選手権大会
高校女子
シングルス　準優勝　宍戸　京香

クラス会だより

協友会　喜寿を祝う

樋口正夫（農蚕3回・角田支部）

昨年九月、喜寿の祝いをかねて、国民宿舎「あぶくま荘」で二年ぶりの同級会を開いた。

開会の挨拶・会員の動向・会計報告、そして、前回の同級会の折決定した写真集―同級会の様子を一冊にまとめた―ができ上ったので全ての同級生に配った。

又、事務局から

①母校の九十周年記念にむけての協賛金の拠出

②級友S君宅の火災に対する見舞い

の二つが提案され、承認された。

暫時休憩の後、懇親会に入った。乾杯を皮切りに、大槻光男君の日舞「さんさ時雨」で幕を開け、カラオケで絶唱し、友との語り合いで時を過ごした。

二次会は部屋を移動して、夜遅くまで歓談し、楽しく過ごすことができた。

翌日は母校訪問。

渡邉教頭先生に迎えられ、校舎内を案内してもらう。

将来の進路にあわせた四系統の学習について、それぞれの担当の先生方から説明を受けた。

最後は同窓会館二階で、校長先生から教育方針のご説明を受けた。

学舎を去って五十有余年、社会の変動と共に、学舎の近代化、学習内容の深さと高度化に昔日の感を深めさせられた。

間もなく九十周年を迎えるとか。私達が今日あるも、中学・高校の多感な六か年間お世話になった母校に感謝の意を込めて協賛金として寸志をご受納頂いた。

校長先生のお話が終わって二階から下りてくると、たくさんの生徒とすれちがった。彼らから一様に「今日は」と挨拶をうけた。それが私をして清々しい気持ちにしてくれた。

いろいろな思い出が去来する中、参加できなかった友と共に母校の発展を祈り校舎を後にした。

ゴールデン会思いはひとつ

大蔵勝光（普通10回・仙台支部）

平成二十二年明けましておめでとうございます。私達ゴールデン会は昭和三十六年卒業（五十三名）の同級会です。名の由来は、在校中担任だった八巻先生が「ゴールデンバット」の愛煙家だったことで名付けました。

さて、昨年九月二十八・二十九日の両日、松島活魚の宿を会場に、同級生二十名が参加し、同級会を開催いたしました。卒業後は節目節目で同級会を開催していましたが、今回五年の空白があり、開催を望む声が多く寄せられ、開催の運びとなりました。

久しぶりに参加したS君はじめ受付が始まり、開催のしおりと共に同窓会報を配布、各々ページに目を通しながら懐かしむ声が流れてきました。松島の美しい景観を望みながら、心安らぐひとときを過ごし、お風呂からの絶景のオーシャンビューの展望を楽しみ、裸の付き合いで汗を流した後は、交流会（宴会）の始まりです。六名の同志を失ったこと、再開できた喜びを感じ次に継げていこうと開会のあいさつがあり、物故者のご冥福をお祈りし、ハーモニカ演奏と共に校歌を声高らかに歌いました。旬の料理の品々を楽しみ、地酒も入り昔話に花が咲き、再会を喜び、同志のカラオケなどで一層会が盛り上がり、時を忘れて絆を深め合いました。

翌日は、名所観光（ガイド付）遊覧船島めぐり、正宗歴史館見学等をして、修学旅行気分を満喫しました。昼食後解散となりましたが、この二日間楽しく過ごした同志の気持ち、思いはひとつであったと思います。

今回欠席された恩師への思い、同志からのメッセージに対する思い、そして今を思う気持ちを大切にしていきたい。これらの「思う気持ちがひとつ」であることが、伝わった同級会でした。

ありがとうございました。

四半世紀ぶりの再会！

宍戸光晴（商業17回・丸森支部）

それは、実に二十五年ぶりの再会でした。

高校を卒業して間もない頃に一度クラス会を開いてから、なかなか集まる機会が持てませんでしたが、恩師の菅野則明先生が定年退職を迎えられるという話を聞き、ぜひ先生に感謝の気持ちを伝えたいと、地元に残っている仲間と企画し、昨年五月にクラス会を開催しました。

余りにも年月が経ち過ぎていたため、住所が分からずクラス会の案内に苦労しましたが、何とか連絡が取れて、当日はクラスの約半数の十九名の仲間が懐かしい顔を見せてくれました。

体重が倍増したり頭のテッペンが淋しくなった仲間がいる一方で、高校時代とほとんど変わらない仲間もいて、とても皆が四十五歳の同級生とは思えませんでした。また、還暦を迎えられた菅野先生も当時と変わらない元気で若々しい姿を見せてくださいました。

開会すると、皆は一気に学生時代にタイムスリップしたかのように、懐かしい話題で盛り上がりました。

当時、商業科の必須科目だった簿記や珠算の資格取得に苦労した話や、部活動で先輩にしごかれた話、また、授業をさぼって出かけた事や当時好きだった異性の話など、今だから話せる話題も飛び出し、楽しい時間はあっという間に過ぎました。

日ごろ、職場や地域で大きな役割を担い、家庭でも子育てなどで苦労の絶えない私達の年代。懐かしい仲間と酒を酌み交わしながら、時を忘れて語り合うことができた今回のクラス会は、日ごろの疲れを癒してくれ、また、明日への活力を与えてくれました。

これを機会に、この素晴らしい仲間との交流を更に深めていきたいと思います。

編集後記

今年もご寄稿ありがとうございました。いよいよ母校創立九十周年を迎えます。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。